

# 真岡市の図書館の整備方針

## 1. 真岡市の図書館の整備方針の策定

現在の真岡市立図書館は昭和57年6月に建設され、約37年が経過していることから、空調設備の改修や、屋上防水工事、外壁修繕工事といった老朽化による施設本体の更新の必要があるだけでなく、トイレや通路などの施設内部のバリアフリー化に十分に対応できていない状況となっています。

また、図書の購入や寄付の受け入れによって、年々、蔵書冊数が増加しているものの、書架や閉架書庫が不足し、更なる蔵書の充実や、適切な図書の入れ替えに対応できていない状況となっていることから、今後の真岡市立図書館、真岡市立二宮図書館（以下、「二宮図書館」）、真岡市公民館西分館図書室（以下、「西分館図書室」）の2館1室で構成される真岡市の図書館の整備方針として、取りまとめるものです。

真岡市の図書館の現状

|          | 建設年             | 延床面積      | 蔵書冊数                 | 貸出冊数     | 入館者数     |
|----------|-----------------|-----------|----------------------|----------|----------|
|          |                 |           | うち開架冊数               |          |          |
| 真岡市立図書館  | 昭和57年<br>平成5年増築 | 2,555.41㎡ | 212,922冊<br>178,525冊 | 217,791冊 | 175,189人 |
| 二宮図書館    | 平成9年            | 981.96㎡   | 70,697冊<br>57,030冊   | 59,465冊  | 54,219人  |
| 西分館図書室   | 平成6年            | 295.80㎡   | 22,968冊<br>22,968冊   | 9,896冊   | 12,448人  |
| （ 全館合計 ） |                 |           | 306,587冊<br>258,523冊 | 287,152冊 | 241,856人 |

「真岡市の図書館 令和元年度」（平成30年度数値）

## 2. 真岡市立図書館に求められているもの

2館1室の真岡市の図書館のうち、特に本館である真岡市立図書館については、毎年度実施している「図書館利用者満足度調査」や、「新庁舎周辺整備基礎調査」（平成30年3月）において、次のような意見、要望が挙げられています。

真岡市立図書館への意見、要望

| 主な課題等     | 現状、要望等  |
|-----------|---|
| 空間、閲覧席の整備 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閲覧席が少なく、利用目的に合わせた空間や環境が整備されていない</li> <li>・ 子どもの声が響いてしまうため、利用しにくい</li> <li>・ 休憩コーナーが狭く、利用しにくい</li> <li>・ カフェなどを併設してほしい</li> <li>・ 長く滞在できるように、図書館+アルファの施設が欲しい</li> </ul> |
| 施設の老朽化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレや通路が狭く、バリアフリーに対応していない</li> <li>・ 子ども用のトイレを設置して欲しい</li> <li>・ 照明が全体的に暗い</li> <li>・ 雨漏りするなど、施設が古い</li> </ul>  |
| 書架の整備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書架に本を詰め込みすぎているため探しにくい</li> <li>・ 絵本がぎゅうぎゅうで、取りにくい（子どもでは取りにくい）</li> <li>・ 古い本が多いように感じる</li> </ul>   |

「新庁舎周辺整備基礎調査」（平成30年3月）、「図書館利用者満足度調査」（平成29年度）

ここでは、真岡市立図書館に求められるものとして、施設の老朽化への対応や、蔵書の充実、適切な図書の入替えといった課題だけでなく、「子どもの声が響いてしまうため、利用しにくい」といった意見や、閲覧席や休憩コーナーの整備、長時間の滞在が可能である施設となることを望む意見があることが分かります。

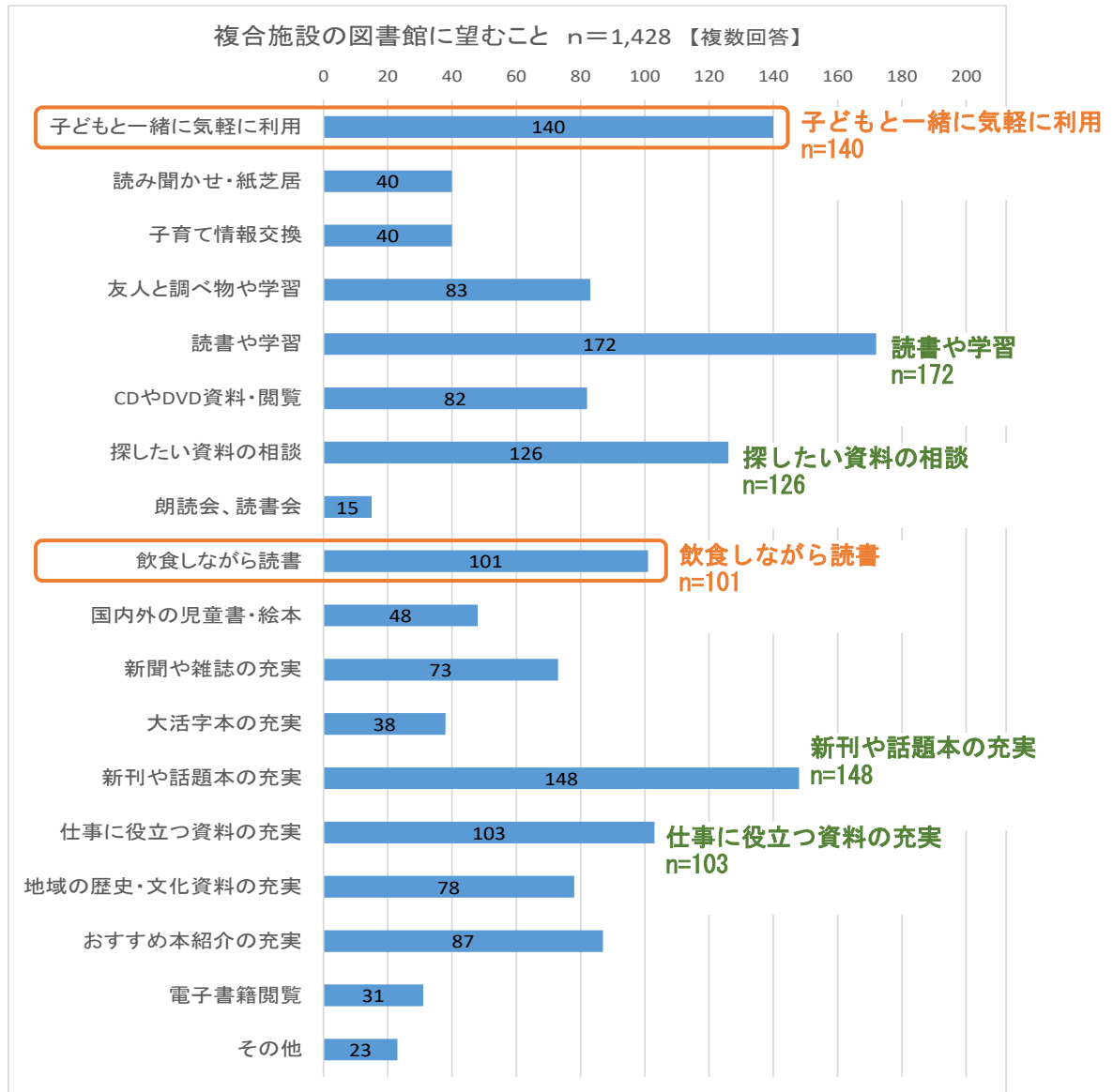
さらに、「新庁舎周辺整備基本構想」（平成31年3月）において実施した市民アンケート調査では、複合施設の図書館に望むこととして、回答総数1,428票（複数回答）のうち140票（9.8%）が「子どもと一緒に気軽に利用」と回答しており、特に子育て世代の回答者を抽出した場合には、回答総数403票に対して70票（17.4%）が回答していることから、子育て世代では、図書館を利用したいものの、現状は利用しにくい状況が分かります。

以上のような真岡市立図書館が抱える課題の解決に向けては、従来からの図書館機能の充実だけでなく、子どもと一緒に利用しやすい環境も整備することで、利用者の多様なニーズに応えることができる新たな図書館を目指すことが必要です。

また、真岡市の子育て支援に関しては、昭和56年に旧・田町保育所として建設された真岡市第一子育て支援センターが、真岡市立図書館と同様に施設老朽化の問題を抱えていることから、図書館機能と子育て支援機能のそれぞれの充実を図るため

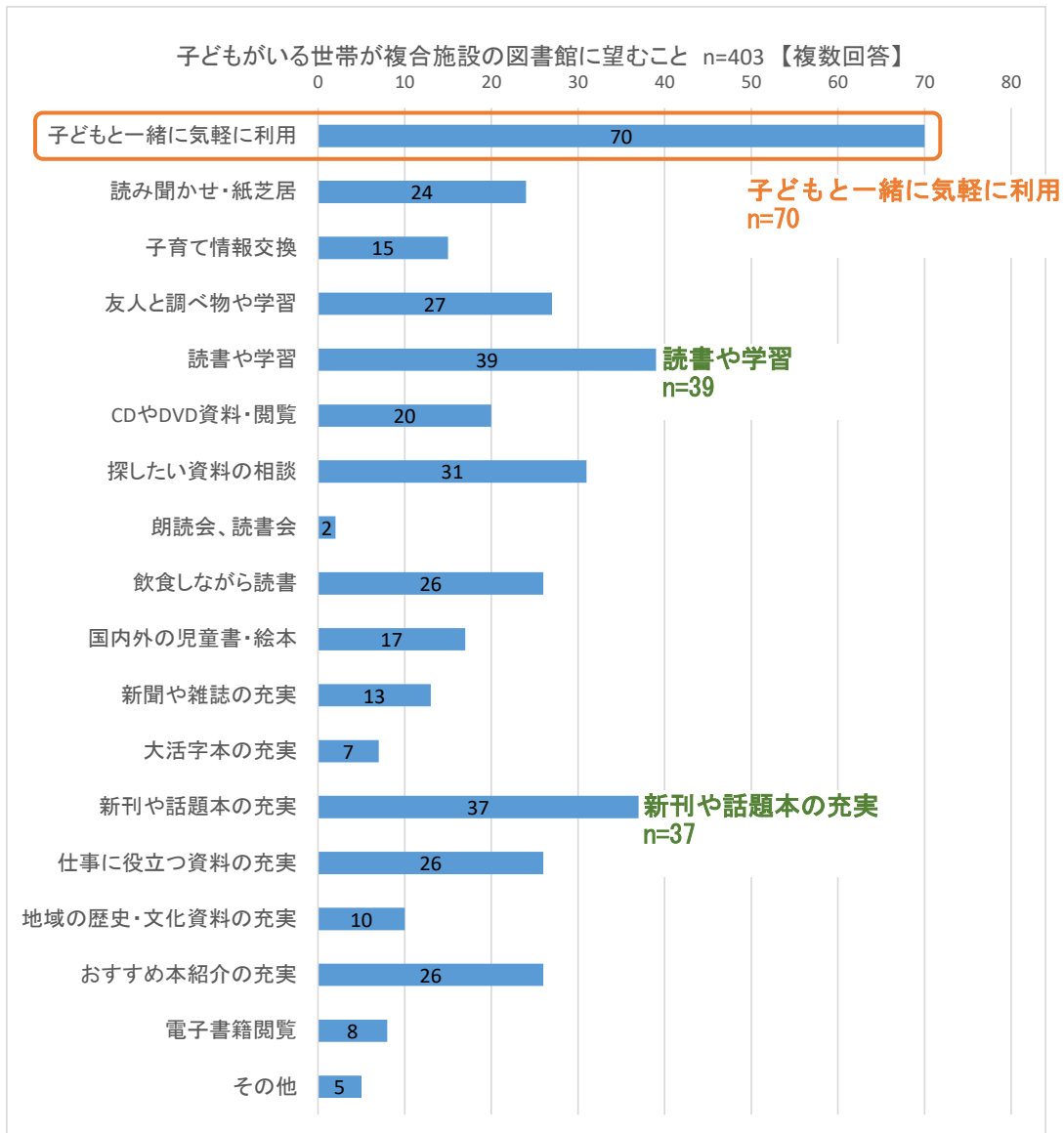
には、両施設を複合施設化し、機能の相乗効果が発揮されることで、子どもから高齢者まで幅広い世代の市民が利用する新たな図書館である「静と動」が調和する図書館となることが、課題の解決のためには重要であると考えられます。

### 複合施設の図書館に望むこと



「真岡市新庁舎周辺整備基本構想」（平成 31 年 3 月）

## 子どもがいる世帯が複合施設の図書館に望むこと



「真岡市新庁舎周辺整備基本構想」（平成 31 年 3 月）

### 3. 真岡市の図書館の目指す姿

「真岡市子どもの読書活動推進計画（第二期）」（平成27年3月）において、図書館の今後の課題として「乳幼児期の子どもの読書習慣を形成するために、小さな子どもを連れた保護者等が、周りに気兼ねなく安心して利用できる環境を提供できるよう努める必要」を挙げており、今後は従来からの静かに読書や学習ができる環境だけでなく、子どもと一緒に利用しやすい環境を整備していく必要があります。

近年整備され、幅広い世代の利用者を集めている図書館の先進事例である、神奈川県大和市の「文化創造拠点シリウス」や、長野県塩尻市の「市民交流センターえんぱーく」では、子育て支援機能として屋内型子ども広場や子育て支援センターを図書館に併設することで、遊び場の利用や育児に関する相談で訪れた親子が、年齢に応じた本の紹介を見て気軽に手に取り、その場で座って本が読めるような環境が整備されています。

また、これらの先進事例は、駅や学校に近い中心市街地に立地していることで、買い物に行くときや、学校や会社の帰りといった日常生活の中で、気軽に訪れることができる施設となっています。

以上のことから、これからの真岡市の図書館が目指す姿としては、子どもから高齢者までの幅広い世代が、日常生活の中で、それぞれの目的で気軽に立ち寄ることができる施設となるように、徒歩や自転車、自動車だけでなく、生活の足となる公共交通を利用できる中心市街地に立地する必要があります。

さらに、図書館の機能としては、子育て支援機能との複合施設となることで、主に学生や大人が読書や学習で利用する静かな空間だけでなく、子どもの遊び場と子育ての相談ができる場所として、子どもと一緒に利用しやすい空間が共存する「静と動」が調和する図書館を目指すものです。

図書館の先進事例

|                             | 建設年   | 図書館面積<br>(延床面積)                                | 蔵書冊数     | 貸出冊数     | 入館者数       |
|-----------------------------|-------|--|----------|----------|------------|
| 神奈川県大和市<br>文化創造拠点<br>シリウス   | 平成28年 | 5,329m <sup>2</sup><br>(22,904m <sup>2</sup> ) | 401,522冊 | 713,866冊 | 3,053,751人 |
| 長野県塩尻市<br>市民交流センター<br>えんぱーく | 平成22年 | 3,286m <sup>2</sup><br>(11,902m <sup>2</sup> ) | 392,970冊 | 525,116冊 | 431,313人   |

( ) は複合施設としての延床面積

また、図書館の目指す姿を定めるにあたって重要な指標となる、蔵書冊数については、文部科学省による『「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の告示について（通知）』（平成24年12月19日）と、合わせて「図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」（平成24年8月 これからの図書館の在り方検討協力者会議）に掲載されている「目標基準例」（日本図書館協会作成）（以下「望ましい基準」という。）に、各自治体の人口規模に応じた蔵書冊数、開架冊数といった目標値が示されています。

図書館設置及び運営上の望ましい基準（抜粋）

| 人口           | ～6.0万人    | ～8.0万人    | ～10.0万人          |
|--------------|-----------|-----------|------------------|
| 図書館設置市町村数    | 87        | 107       | 77               |
| 対象市町村数       | 9         | 11        | 8                |
| 人口           | 54,689.4  | 64,346.6  | <b>85,089.0</b>  |
| 図書館数         | 2.3       | 3.1       | 3.0              |
| 図書館専有延床面積（㎡） | 3,371.4   | 4,389.5   | 4,188.4          |
| 蔵書冊数         | 293,787.2 | 415,759.4 | <b>408,536.1</b> |
| うち開架冊数       | 185,759.4 | 237,480.1 | <b>235,164.7</b> |

※ 各人口段階の貸出密度（住民一人当たりの貸出資料数）上位10%の市町村の平均数値

※ 図書館専有延床面積は対象市町村の図書館延床面積合計の平均

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて」

「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書（平成24年8月）

（日本図書館協会が「日本の図書館2011（日本図書館協会編）」を基に作成）

※ 真岡市の令和元年8月1日現在の住民基本台帳人口 80,442人

真岡市が属する人口が8万人以上10万人未満の自治体の目標値としては、蔵書冊数を約40.8万冊、開架冊数を23.5万冊と設定されています。

この基準は、全国の貸出密度上位10%の市町村の平均値として算定されており、真岡市の図書館の蔵書数は約30.6万冊、開架冊数は25.8万冊となっていることから、蔵書冊数は目標値を下回っているものの、開架冊数は全国上位に位置していることが分かります。

しかしながら、蔵書冊数の充実は年々図られているものの、書架や閉架書庫が不足していることで、更なる蔵書の充実や、新たな図書資料の購入や適切な図書の入れ替えに対応できていないという課題を解決し、将来的な蔵書の充実と適切な本の入れ替えによって、多くの利用者に本を手にとってもらえることを目指す必要もあります。

以上のように、真岡市の図書館として、子育て支援機能との複合施設化を図る真岡市立図書館だけでなく、本館を補完する二宮図書館、西分館図書室を含めた2館1室の体制により、現在抱えている課題の解決に向けて取り組む必要があります。

#### (1) 真岡市立図書館

真岡市立図書館は、真岡市第一子育て支援センターとの複合施設として、天候にかかわらず子どもと一緒に遊ぶことができる屋内型子ども広場も整備することで、従来からの図書館機能の充実だけでなく、子育て支援機能の充実も図っていきます。

また、複合施設の子育て支援機能と融合を図ることで、子どもの遊び場の利用や、育児に関する相談で施設を訪れた親子が気軽に本を手にとることができ、子どもが本と出会う機会や、乳幼児期からの読書習慣を形成する場となることを目指していきます。

以上のことから、真岡市立図書館は、静かに学習や読書ができる従来の図書館だけでなく、新たに子どもと一緒に利用しやすい図書館が共存する「静と動」が調和する図書館を目指すものです。

#### (2) 二宮図書館

真岡市立図書館が子育て支援機能との融合を目指すことで課題解決を図るだけでなく、真岡市の図書館全体では、将来の蔵書冊数の充実と、図書の入替えが可能となるために、閉架書庫機能の充実を図る必要があります。

現在の閉架収容可能冊数は、真岡市立図書館が2.5万冊、二宮図書館が1.5万冊、西分館図書室には閉架書架が存在せず、市全体での収容可能冊数が4.0万冊となっていることから、蔵書冊数に対して閉架冊数が大きく不足しています。

そのため、二宮図書館の閉架書庫を改修することにより、現在の1.5万冊の収容可能冊数を増強し、真岡市立図書館と合わせた閉架書庫機能を充実させることで、市全体の図書の充実を目指すものです。

#### (3) 西分館図書室

西分館図書室は、平成6年に真岡市西部地区の生涯学習拠点である公民館西分館内に開館し、近年では真岡市亀山地区、長田地区の土地区画整理事業の進捗に伴い、人口が増加している地域に位置する図書室です。

真岡市立図書館、二宮図書館と比べると規模が小さい図書室ながら、真岡市西部地区での図書館機能の重要な拠点となっていることから、必要に応じた図書の入替えを図ることで、2館を補完する拠点として位置付けていくものです。

#### 4. 真岡市の図書館の整備方針

真岡市の図書館が抱えている課題と、今後目指す姿を整理した上で、真岡市の図書館の整備方針として、以下の3点を定めます。

- (1) 真岡市立図書館を子育て支援機能との融合を目指して移転、複合施設化し、従来の静かな空間と子どもと一緒に利用しやすい空間との共存する「静と動」が調和する図書館を目指します。
- (2) 将来的な蔵書の充実と、適切に図書の入れ替えを行えるように、二宮図書館の閉架書庫機能を充実させることで利用者の利便性の向上を実現し、より一層、本を手にとってもらえることを目指します。
- (3) 真岡市の図書館2館1室として、それぞれの機能分担と運営を図ることで、子どもから高齢者までの幅広い世代が、気軽に立ち寄りたくなる図書館を目指します。

真岡市では、これらの整備方針を踏まえて、真岡市新庁舎周辺整備事業の複合施設に真岡市立図書館を移転することで、図書館機能と子育て支援機能の充実を図るだけでなく、引き続き真岡市立二宮図書館、真岡市公民館西分館図書室との2館1室の体制によって、真岡市民の教育と文化の発展に寄与する図書館の整備を目指すものです。

また、移転する真岡市立図書館の跡地に関しては、施設の老朽化によって大規模な改修が必要であるだけでなく、「真岡市公共施設総合管理計画」（平成29年3月）においても、公共施設の総床面積の25.5%削減を数値目標として掲げていることから、施設の解体撤去も考えられますが、他の公共施設の移転や統廃合を含めた総合的な観点で、今後の利活用の検討を進めることとします。